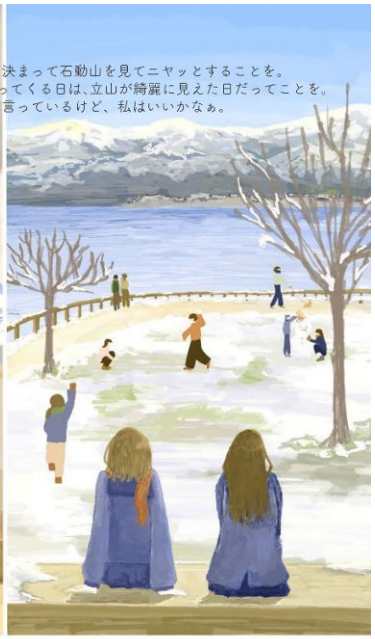
整理番号㉚-1

「おかえり」がこだまするまち氷見









01 氷見の将来像：氷見と氷見線が支えあう未来

氷見線は氷見にとって高岡や富山などへの気軽なアクセスを可能にし、氷見を便利で住みやすいまちにする重要なインフラです。氷見線が将来にわたって維持されていくには、氷見線が利用され続けることが必要です。

もし、人口減少や中心市街地の空洞化が進行する氷見のまちが今よりも住み続けたいまち、都会に出ても帰りたいまち、市外から住んでみたいと思えるまちになるならば、氷見は、氷見線と支えあいながら持続可能なまちになることができるのではないかと考えます。



氷見市 住み続けたいまち、ふと帰りたくなるまち

氷見に人を運ぶ ↑↓ 氷見線の利用率の維持

氷見線 氷見線／城端線の直通運転本数の増加

02 現状分析：氷見がもつ、ふとまちへ帰りたくなる原動力

風景とともにある記憶や思い出

氷見駅周辺エリアは、まちから少し足を伸ばすだけで、雄大な自然の魅力に触れられる場所に位置します。

また、大火からの復興で整えられた格子状のまち割りにより、まちの至るところでふとした瞬間にまちと自然がつくりだす魅力的な風景を目にすることができます。

こうした風景に囲まれながら、氷見で過ごした時間は豊かな記憶や思い出として人々の頭と心に残っていくと考えます。

まちやまちの人への親しみ

氷見のまちなかでは、軒先に置かれたベンチや手入れされた植物、学生の活動などを目にすることができます。

こうした風景から、氷見で暮らす人が氷見のまちや、まちで暮らしている人に親しみを持ち、日常を楽しんでいることを感じられます。

◇雄大な自然


富山湾


湊川


能登半島の山々

◇まち割りと自然が作り出す日常の風景


曲がり角から望む石動山


家々の間に見える富山湾


視線の先で光る黒瓦

◇まちかどから伝わる氷見での暮らし


商店街の軒先ベンチ


手入れされた植物


ひみりべ

このエリアで過ごし、生まれる記憶や思い出、まちへの親しみは、氷見にふと帰りたくなる原動力だと考えます。私たちはこの原動力をまちなかで今よりもっと育むことができれば、氷見をふと帰りたいまち、住み続けたいまち、住んでみたいと思えるまちにすることができるのではないかと考えます。

03 コンセプト：おかえりがこだまするまち氷見

日常の中にある美しく懐かしい氷見の風景を感じながら、過ごしたり、親しみを持てるような場所は、氷見で過ごした記憶や思い出として誰かの心に残っていきます。こうした記憶や思い出を育むことができる、ひとりひとりの居場所はまた誰かにとっても懐かしさを感じる“居場所”になっていき、“氷見のまちの居場所”となっていきます。

そこに戻ると安心する、帰るとまるで「おかえり」がこえてくるような“居場所”を増やしていくことで、氷見を住み続けたいまち、ふと帰りたくなるまち、住んでみたいと思えるまちにしていきます。



04 おかえリノベーション

氷見駅周辺エリアに今もある良さを活かしながら、居場所を作り出していく“おかえリノベーション”を実行し、15年後におかえりがこだましているまちを目指します。

①既存ストックを核とした居場所づくり

氷見駅周辺エリアには、駅や商店街、みなとがわ倉庫など、既存ストックが複数存在します。既存ストックが今ももつポテンシャルを活かし、無理なくまちなかに氷見の魅力に感じられる場所を作り、居場所を増やすきっかけを作ります。

②氷見の魅力に気づくしかけづくり

氷見のまちに身近にある海や川、山など雄大な自然やまちなみの魅力に気づく・触れられるしかけを作ります。

③まち・居場所への関わりしろづくり

①居場所づくりと②しかけづくりを地域住民のみなさんと一緒に行い、まちと関わるきっかけを作ります。使い方をみんなで考えることでまちの魅力に触れたり、まちやまちの人への親しみを育みます。

おかえリノベーションの進め方

おかえリノベーションは、市民、来訪者などの多くの人の居場所となりうる氷見駅・駅前広場から始めていきます。駅周辺から波及するように、時間をかけてエリアに居場所を広げていくことで、氷見に住む人たちのまちや居場所への関わりも育んでいきます。

現在



駅から居場所づくりを始める

10年後



既存ストックを核とした居場所整備

15年後



まちの至るところに居場所が生まれ、まちを歩き、氷見の魅力に気づく人が増加

整理番号㉚-2

05 氷見駅・駅前広場の居場所づくり

人は家に帰った時に、玄関で「おかえり」を聞きます。氷見にとっての玄関口は、氷見駅・駅前です。
市民や来訪者といった多くの人を出迎える居場所として、氷見駅・駅前広場からおかえりリノベーションを進めていきます。

氷見駅・駅前広場のポテンシャル

鉄道がまちに入り込む終着駅
鉄道がまちに入りこむような駅でまちとの距離が近い

石動山と立山との位置関係
氷見駅を出ると家々の隙間から石動山を望むことができる
石動山と立山を結ぶ軸上に氷見駅は位置する

駅前の広大な自動車空間
駅前に広大な交通ロータリーと駐車場がある
道路・交通再編で駅前に広大なオープンスペースを作れる

デザインコンセプト　おかえり Himi Park

新しい氷見駅・駅前広場は市民にとって豊かな時間を過ごせる公園となります。
放課後電車をまちながら過ごす氷見高生、近所の人とピクニックをする親子連れ、
1人でぼーっとする人・・・
市民が思い思いの過ごし方をする公園に氷見線に乗って帰っていく。駅に
着いた瞬間に氷見自慢の風景が広がり、おかえりが聞こえてきます。



デザイン方針

①鉄道と公園の一体的な空間づくり



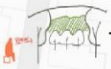
デザイン上の工夫
・駅を包み込むような滞留空間
・ホームと公園の居場所で共用の大屋根
・まちとシームレスな改札

②住民の多様な活動を受け入れる居場所づくり



イメージする活動
・学生が勉強やおしゃべり
・ピクニック
・1人でぼーっとする
・お年寄りの井戸端会議
・市内外のイベント

③石動山への視点づくり



デザイン上の工夫
・屋根と樹木による
石動山のフレーミング

④商店街や海へのつながりづくり



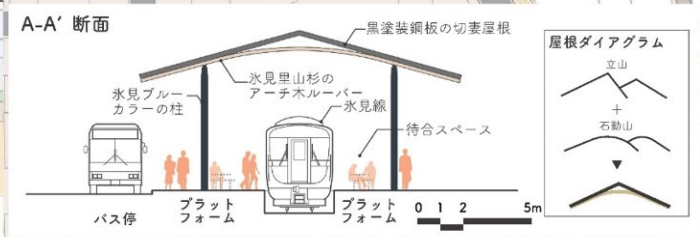
デザイン上の工夫
・まちへつながる舗装デザイン
・動線に沿った滞留施設の配置

⑤乗り換えを支える空間づくり

デザイン上の工夫
・一般車と公共交通の分離
・ロータリーの再編
・二次交通へのスムーズな乗り換え







整理番号㉚-3

06 おかえりノベーションのアクションプラン

①誰でもまちのことを考えられる「まち会議」の開催

氷見のまちの良さを語り、まちの使い方を議論する「氷見まち会議」を定期的に開催します。住民や氷見市が一緒に議論することで、居場所づくりが実践しやすくなります。



②まちを使ってみる「チャレンジ氷見」の開催

まち会議で出た意見をもとに、実験的に居場所づくりを進められる「チャレンジ氷見」制度を作ります。居場所づくりのハードルが下がることで、多様な居場所や関わり方が生まれます。

③交通網再編と駐車場再配置と活用

道路を車中心から人中心に変え、居場所を作りやすくするため、広域交通網の整理・再編を行い、エリア内の通過交通を除いていきます。また、駐車場はエリア周縁部に再配置し、エリア内の車両流入を抑制します。駐車場には、モビリティポートも設置することで、エリア内の回遊がしやすくなります。



④空き店舗・空き地の活用

空き店舗・空き地も活用して、まちなかの居場所づくりを行います。既存組織みらいエンジンが一括管理・窓口となることで借りやすく、使いやすくします。

⑤氷見暮らしをしやすくする「移住・居住支援」

まちで活動をしたい人にエリア内のリノベーションをした空き家を貸し、家賃や生活費の一部を補助することで、まちへ関わる人を増やしていきます。また、廃園した保育所を既存組織みらいエンジンの拠点として活用しつつ、保育所機能を併設させることで、子育て世帯も暮らしやすく、まちの関わりしろを持ちやすくなります。

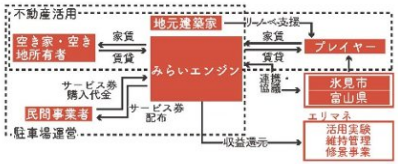
07 おかえりノベーション実行体制

住民目線での居場所づくりを進められるように、既存組織みらいエンジンの役割を拡大し、市と協働、金融機関や企業、学生と連携しておかえりノベーションを実行してきます。また、空き店舗・空き地の一括管理や駐車場の運営等に伴う収益を公共空間活用の実験・維持管理・修景補助などのエリアマネジメント活動に還元していくことで、まちなかに居場所を持続的に育んでいきます。

実行体制



収益フロー



08 氷見駅周辺エリアの将来像

おかえりノベーションにより、居場所が広がり思い出や記憶・関わりしろが生まれています。

